

【収蔵展】『浜松文芸館の宝物』—新収集資料を中心に—

「はままつの光と風がいつも見つめていた。」

「先人の感性にふれてみたい。今日のはままつを語りたい。明日を語ってみたい。」

浜松文芸館は来年で開館35年を迎えます。クリエート浜松に移転してからは7年がたちました。展示ではこれまで多くの皆様から様々な資料を御寄贈いただいたり、お借りしたりして浜松の文学の魅力を微力ながら発信してきました。第1回目の記念すべき展示は「鷹野つぎ展」で、自筆原稿や初版本、養父の松島十湖の書簡などが展示されました。今回が99回目の展示です。クリエート浜松に移転してから新しく収集した資料を中心に「浜松ゆかりの文芸人」の自筆原稿や掛け軸、短冊など選りすぐって展示します。ほとんどの資料が当館では初公開となります。じっくりとご観覧ください。

この展示を通して浜松ゆかりの作家や文芸作品を知っていただくとともに、ふるさと浜松の文芸の大切な文化遺産を後世に伝えていく浜松文芸館の活動を少しでも御理解いただければと思います。



浜松の文芸十人の先駆者

- | | | | |
|-------------|-------|-------------|-------|
| ・偉大なる土の俳人 | 松島十湖 | ・浜松歌壇俳壇の指導者 | 加藤雪腸 |
| ・伊藤左千夫門下の歌人 | 柳本城西 | ・物心一如の浜松の至宝 | 原田濱人 |
| ・自立を謳う女性先覚者 | 鷹野つぎ | ・仙境溢れる蛇笏賞俳人 | 相生垣瓜人 |
| ・紫綬褒章の望郷詩人 | 清水みのる | ・詩情豊かな蛇笏賞俳人 | 百合山羽公 |
| ・志賀を継ぐ野間賞作家 | 藤枝静男 | ・児童劇一筋の演劇人 | 小百合葉子 |

清水みのるが作詞した幻の浜松市歌

現在の浜松市歌は平成19年に政令市に移行したときに作られました。旧浜松市歌を作詞したのは森鷗外です。昭和35年(1960)に市制50周年を記念して、新しい浜松市歌を制定しようという機運が高まり、清水みのるが作詞し、三浦洗一と市丸が歌うということに決まっていたのですが、諸事情により浜松市歌は採用されなかったという新聞記事が出てきました。もしかしたら、私たちは清水みのるが作詞した浜松市歌を歌っていたのかも知れませんが、詩も曲も残っていかなくて、どんな歌なのかわかりませんが、ちょっぴり残念な気持ちです。

